

科目ナンバリング		G-AAA01 51101 LJ31									
授業科目名 <英訳>		自然生態論 Ecological History I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。 ・植生や植物（野生植物、雑草、農作物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。 ・文献により重要な概念を学ぶとともに、野外実習や標本資料をつうじてモノを覚え、フィールドワークでの観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 世界史を変えた50の植物 第2回 植物から地域をみる：植物の多様性 第3回 野外実習：東山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第4回 植物から地域をみる：栽培植物と農耕の起源 第5回 植物から地域をみる：大航海時代とプラントハンター 第6回 農業から地域をみる：水田稲作 第7回 農業から地域をみる：焼畑耕作 第8回 野外実習：鴨川の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第9回 農業から地域をみる：里山の環境利用 第10回 植物から地域をみる：森林の植生 第11回 農業から地域をみる：日本の林業 第12回 植物から地域をみる：木材の利用 第13回 野外実習：西山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第14回 植物から地域をみる：植生と植物利用 第15回 期末レポート・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 自然生態論 (2)へ続く -----											

自然生態論 (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。
平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房, 2007年) ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51104 LJ31									
授業科目名 <英訳>		社会生態論 Environmental Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
熱帯生物資源の利用と保全をめぐる問題を、フィールドワークによって考察・分析する力、さらにそれを取りまとめて発表する力を身につけることを目的とします。本年度は、生物資源の管理をテーマに、輪読とレポート作成をおこないます。											
【到達目標】											
海外で臨地調査をおこなうために必要な基礎的な考察力・分析力・発信力を自主的に習得できるようになる。											
【授業計画と内容】											
講義では、関連論文の輪読とレポートの作成をおこないます。											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回～第11回											
まずつぎの論文を輪読します。											
G. Hardin (1968) 'The tragedy of the commons' Science 162, 1243-1248											
D. Feeny, et al. (1990) 'The tragedy of the commons : twenty-two years later ', Human Ecology 18-1, 1-19											
G. Hardin (1998) ' Extensions of ' The tragedy of the commons ' Science 280, 682-683											
E. Ostrom, et al.(1999) ' Revisiting the commons: Local Lessons, Global challenges. ' Science284, 278-282											
T. Dietz, et al.(2003) 'The struggle to govern the commons' Science 302:1907-1912											
E. Ostrom (2009) 'A General Framework for Analyzing Sustainability of Social-Ecological Systems' Science 325:419-422											
第12回～第14回											
前回までの生物資源の管理に関する議論と調査手法をふまえたうえで、受講生各自がそれぞれに関心をもつ分野（農業・林業・漁業など）と調査地域を対象とするテーマを設定してレポートにまとめ、発表します。											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートおよび出席状況により評価し、さらに授業の中での積極的な姿勢も考慮に入れます。											
【教科書】											
授業中に指示します。											
【参考書等】											
(参考書)											
授業中に紹介します。											
----- 社会生態論 (2)へ続く -----											

社会生態論 (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業初回に配布する資料を予習・復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生も担当者もフィールドワークに出かける機会が多いので、まず初回に講義日程について話し合い、調整します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51106 LB31									
授業科目名 <英訳>		人間生態学 Field Medicine				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
【到達目標】											
先人たちや同時代を生きる人々のパイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
【授業計画と内容】											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とパイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席による発表、討論、ならびにレポートによって行う。											
----- 人間生態学 (2)へ続く -----											

人間生態学 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

坂本龍太 『ブータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974

奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関する事について調べたり、自分自身の頭でよく考える。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51151 SB31									
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment I					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田	晋也	
							アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤	拓郎	
						東南アジア地域研究研究所	教授	山崎	渉		
						アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂	康之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太		
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境の特質を検討するための基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
[到達目標]											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51152 SB31									
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment II					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田	晋也	
							アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤	拓郎	
						東南アジア地域研究研究所	教授	山崎	涉		
						アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂	康之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太		
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
[到達目標]											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71153 SB31									
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment III					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田	晋也	
							アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤	拓郎	
						東南アジア地域研究研究所	教授	山崎	涉		
						アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂	康之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太		
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71154 SB31									
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment IV					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田	晋也	
							アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤	拓郎	
						東南アジア地域研究研究所	教授	山崎	涉		
						アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂	康之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太		
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51204 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域政治論 Politics and Society III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
2022年度はタイ政治を学びます。 地域政治は、対象の広狭に応じて、Iが比較政治、IIが東南アジア政治、IIIがタイ政治です。2022年度はIIIになります。											
【到達目標】											
タイ政治を理解できるようになることが目的です。											
【授業計画と内容】											
最初に全体像を説明した後、時間軸にそって、政治の大きな流れを説明します。それによって、タイ政治の現在を理解できるようになります。											
(A) 全体像の把握											
1. 2005年以後のタイ現代政治の構造・枠組みを説明し、それがどのように組み上がってきたのか、どのようなトラブルを招いているのかを説明します。 絶対王政 官僚政体 民主化 脱民主化という大きな流れをつかみます。 タイ政治の主役はいつも君主制です。											
(B) 歴史的背景											
2. 王権盛衰の近代 チャクラー改革 19世紀末から1932年：colonialism 人民党の時代 1932年～1957年：nationalism											
3. プーミポン体制1：王権の台頭 1947年～1973年 冷戦下における軍事政権との共存共栄											
4. プーミポン体制2：覇権の獲得 1973～1992年 覇権の獲得											
5. 1997年憲法：覇権継承への備え 「国体」（プーミポン体制）の特色と弱点 君民共治体制の計算間違い											
(C) 民主化と脱民主化											
6. 多数決民主主義の実践 2001～2006年 タクシン政権 君権の相対化											
7. 脱民主化の3つの波：非民主的手法による民主的政権打倒 2006年 2008年 2014年											
8. 国体護持派の陣容：多数決民主主義否定派 神輿、軍隊、司法機関 脱民主化デモ隊											
9. 軍隊と政治											
----- 地域政治論 (2)へ続く -----											

地域政治論 (2)

- 10. 司法と政治
- 11. 「上級国民」の民主政治拒否
- 12. 庶民の怒り：暴力的弾圧

(D)脱民主化の行き詰まり

- 13. 神輿の交代
- 14. 神輿の自走：終わりの始まり
- 15. まとめと展望

【履修要件】

授業中に講読文献を指示します。このため、日本語と英語の文献を読む能力が必要です。

【成績評価の方法・観点】

出欠6割、指示された文献の購読と報告(要約)2割、質疑応答への参加2割。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

飯島明子・小泉順子編 『世界歴史大系 タイ史』(山川出版社、2020年) ISBN:ISBN978-4-634-46212-0C3322

出席者の語学力や問題関心に照らし合わせて、講読参考文献を指示します。

【授業外学修(予習・復習)等】

指示された文献を事前に必ず読むことが必要です。

授業の後には、授業内容を、いわゆる通説とされている先行研究と比較することによって、タイ政治への理解をさらに深めることが望ましいです。授業内容も先行研究も鵜呑みせず、当否を自分で判断するように、心がけて欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に設定しませんが、授業時間外に話し合いを希望するときは、tamada@asafas.kyoto-u.ac.jpへメールを送って、約束を取り付けてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51205 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域歴史論 History and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
日本人の歴史認識をめぐって東アジア諸国の人々とのあいだには依然としてわだかまりが存在している。現在の東南アジア諸国も、かつてさまざまな形態で日本の支配を受け、直接・間接の被害を被った。しかし東南アジア諸国は、東アジア諸国のように一般大衆レベルでも国家レベルでも、被害を訴える声を今のところあまりあげていない（その理由も考察していきたい）。そのため、20世紀前半において日本が東南アジア地域を占領していたこと自体さえ、現在日本国内では正確に認識されているのか疑問がある。東南アジア諸地域に関していかなるテーマを設定し、いかなるディシプリンでもって研究していくにせよ、自分が対象とする地域が、過去に日本とどのような関係をもっていたのか理解しておくことは欠かせない。そのため、この授業では東南アジア各国（各地域）と日本との関係を振り返り、必要に応じてより詳細な研究書にも目を通す。											
【到達目標】											
アジア・太平洋戦争期に、東南アジアの国や地域を日本がどのように統治したか、しようとしたか、各地域の比較を通して、全体像を把握する。さらに、日本の占領について、現在東南アジア各国がどのように語っているかについても、理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 担当決定、参考文献紹介 第2回 マレーシア 第3回 シンガポール 第4回 インドネシア 第5回 フィリピン 第6回 タイ 第7回 ビルマ 第8回 ベトナム 第9回 泰緬鉄道 第10回 インパール作戦 第11回 南洋 第12回 残留日本兵 第13回 東南アジアで裁判を受けたBC級戦犯（韓国・朝鮮人、台湾人） 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2											
【履修要件】											
第1回目の授業に必ず参加すること。第一回目は欠席するが、登録を希望する人はメールにて事前に連絡してください。											
----- 地域歴史論(2)へ続く -----											

地域歴史論(2)

[成績評価の方法・観点]

出席状況、担当回の発表のでき、積極的な発言姿勢を考慮する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

担当回でなくとも、資料に各自目を通して授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51206 LJ31									
授業科目名 <英訳>		宗教社会論 Religion and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>そもそも東南アジア宗教とは何なのか？何をしたら東南アジア宗教を理解したことになるのか？東南アジア宗教の等身大的理解をめざす、という言葉をよく聞く。そうした提言が意義をもつのは、現代世界において宗教的寛容や宗教間の相互理解が必要だと認識されているからである。この一見議論の余地のなさそうな万民にとっての正義は、各宗教が存在論的に対等である（はずである／べきである）という命題の上に成り立っている。しかしこの命題そのものが、2つの点で議論の余地のある問題を含んでいる。ひとつは、各宗教が本質的には同型・同規格の、計量可能な実体だという問題である。もうひとつは、各宗教の対等な並列を成り立たせるためには、それぞれの宗教が掲げる真理を世俗的リベラリズムの下位に置く必要があるという問題である。つまり東南アジア宗教の理解というのは、これらの難問と向きあいながら進めていかなばならない作業なのだということになる。本講義では、上記の命題を批判的に考察すべく、理論的・認識論的問題（具体的には宗教多元主義をめぐる神学論争）を入り口に、アジア・アフリカにおいて宗教の創出と並列がいかにして成立してきたのかを検討し、その出口では、そもそも宗教とは、宗教の理解とは何か、という問いに取り組むことにする。なお授業にあたっては、京都周辺の宗教施設等での校外学習を並行して実施し、実地において宗教と社会との関わりについての理解を深めることを試みる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア地域研究にたずさわる上での基本語彙を養う。 ・ 東南アジア宗教に関する重要論点を理解する。 ・ 日本と東南アジアとを相互に関連づけながら問題を構成する能力を養う。 ・ 国内外の基本文献に関する知識、および、継続的に学術論文を読みながら個々の論文の問題点を抽出し討論する能力を養う。 ・ 先行文献の講読を通じ、それらを土台に自分の論文の問いを構成する訓練を行う。 ・ 討論術や配付資料づくりなどの発表技術の向上をめざす。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画は次のとおりである。</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：宗教多元主義論争（1）</p> <p>第3回：宗教多元主義論争（2）</p> <p>第4回：校外学習</p> <p>第5回：宗教多元主義論争（3）</p> <p>第6回：宗教多元主義論争（4）</p> <p>第7回：校外学習</p> <p>第8回：東南アジアにおける「宗教」（1）</p> <p>第9回：東南アジアにおける「宗教」（2）</p> <p>第10回：校外学習</p> <p>第11回：東南アジアにおける「宗教」（3）</p> <p>第12回：東南アジアにおける「宗教」（4）</p>											
----- 宗教社会論 (2)へ続く -----											

宗教社会論 (2)

第13回：そもそも宗教とは何か (1)

第14回：校外学習

第15回：そもそも宗教とは何か (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績評価は 文献講読の分担 (50点)、平素点 (出席・討論への参加。50点) により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

参考文献は授業中に適宜紹介するので、履修者は次回授業時までにそれらに目を通しておくことが求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーについては定めない。在校時にはいつ訪ねてきてくれてもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51208 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域関連論 State and Society I (Comparative State Formation)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、東南アジアにおけるデジタル化の政治を取り上げる。We Are Socialが2021年に行った調査では、東南アジアの人々は世界的に見てももっともインターネットにアクセスしている傾向が顕著である。そのことは、デジタル化の政治的インパクトと重要性が良い意味でも悪い意味でも東南アジアでは顕著になってきているということでもある。東南アジアにおいて、デジタル化は社会運動の隆盛というポジティブな影響を生む一方、国家による監視の強化やフェイクニュースの蔓延といったネガティブな影響が目立っている。本授業では、こうした多様な東南アジアにおけるデジタル化の政治的影響について考察したい。履修生次第で英語となる場合がある。											
【到達目標】											
受講生は、デジタル化についての理論的枠組を理解した上で、東南アジアにおけるデジタル化の政治社会的影響についての理解を深めることができる。さらに、フィールドワークに基づく研究とデジタル情報に依拠した研究の良い点と悪い点の比較をすることが求められる。											
【授業計画と内容】											
第一回はメインテーマについてのオリエンテーション。第二回目から第五回目は、デジタル化についての理論的文献読解。第六回目から第十二回目は、東南アジアのデジタル化の政治的影響についての事例研究発表。第十三回目から第十五回目は、受講生の決めたテーマについての発表。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席(10%)、二回以上の発表(90%)											
【教科書】											
シヨシャナ・ズボフ 『監視資本主義』（東洋経済新報社、2021年）											
【参考書等】											
（参考書） デイヴィッド・サンプター 『アルゴリズムはどれほど人を支配しているのか？』（光文社、2019年） Aim Sinpeng 『Opposing Democracy in the Digital Age: The Yellow Shirts in Thailand』（Univ of Michigan Pr, 2021） Ross Tapsell 『Deepening the Understanding of Social Media 's Impact in Southeast Asia』（ISEAS, 2021）											
【授業外学修（予習・復習）等】											
具体的な文献などは第二回目に伝える。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51207 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域関連論 State and Society II (Gender and Society)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族はどのように展開しているのか。そもそも家族はどのように理論化され記述され、また制度化されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題、生殖技術や性的マイノリティなどのかかわりを検討し、家族の領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。受講者の一哉構成により、内容や実施形態を変更する場合もある。</p> <p>[Theme : Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized to begin with, how has it been institutionalized, and how has it evolved in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological developments on the macro level from past to present, following relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant labor, aging and care in relation to the family, reproductive technology and sexual minority and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be lectures, presentations by class participants, as well as discussion. There may be some changes in the contents and method depending on the number and constitution of the class members.</p>											
[到達目標]											
<p>1) 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。 2) 家族を論じることを通じて、東南アジアや東アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。</p> <p>1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective. 2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast Asian and East Asian societies in preparation for the participant's own research.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>I 授業の説明と序論【1週】 II 家族をめぐる議論（人類学を中心に）【2-4週】 III ジェンダーと家族【5-6週】 IV 東南アジアの家族とつながり【7-8週】 V 民族誌で読む家族と社会【9-10週】 VI 家族の制度と国家【11-12週】 VII 各論：移動と家族・高齢化とケア・LGBTと家族【13-15週】</p>											
----- 地域関連論 (2)へ続く -----											

地域相関論 (2)

- I Introduction 【week 1】
- II Theoretical discussion of the family 【weeks 2-4】
- III Gender and family 【weeks 5-6】
- IV Family and relatedness in Southeast Asia 【weeks 7-8】
- V Reading ethnographies on family and society 【weeks 9-10】
- VI The family as institution and state 【weeks 11-12】
- VII Topics: Migration and family, intercultural marriage, care, LGBT family etc. 【weeks 13-15】

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

授業での議論への参加（30％）・発表（30％）・期末レポート（40％）

【Method of evaluation】

Participation in class discussion (30%), class presentation (30%), final report (40%)

【教科書】

授業中に指示する

授業は、7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。

Introduced during class.

The semester will be divided in seven clusters, and texts will be distributed before each cluster.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を（受講者数に応じて）分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。

Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.

Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.

The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

（その他（オフィスアワー等））

面談時間は随時相談に応じる

There will be no specific office hours. Students needing a one-on-one meeting are welcome to contact me to set a schedule.

地域相関論 (3)へ続く

地域相関論 (3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51209 LJ31									
授業科目名 <英訳>		宗教史論 Religious History				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、研究書の講読をとおして19世紀末から20世紀半ばにかけての東南アジアのイスラーム運動について考察する。この時期の東南アジアの政治運動については、かつては世俗的ナショナリズムが議論の中心であったが、近年の研究ではイスラーム運動の意義の再検討が進んでいる。その一つの要因は、現代におけるイスラーム運動を理解する上で、過去との連続性・非連続性を検証することが不可欠なためである。本講義では、広域的なイスラーム世界との関係や地域の歴史的な背景の説明も交えながら論じていく。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代東南アジアにおけるイスラームの歴史的展開について、基礎的な知識を身に着けるとともに、これまでの研究の論点を理解する。 ・先行研究の方法・議論を批判的に検討することを通し、自らの研究の進め方や論の構成の仕方について学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス、報告順番の決定 第2回 東南アジアのイスラーム史に関する概説 第3回～第15回 東南アジアのイスラームに関する文献の講読 ただし、履修者の人数に応じて第14回と第15回を研究内容の発表にする場合がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
発表（30％）、平常点（出席、議論への参加）（70％）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
テキストについては担当以外の回もあらかじめ読んでおき議論に参加すること。テキスト以外に紹介する参考文献も読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィス・アワーは特に定めていません。在室時はいつ訪ねてきても構いません。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51251 SB31										
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹				
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するための、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。												
【到達目標】												
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。												
【授業計画と内容】												
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。												
【履修要件】												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
【成績評価の方法・観点】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学修(予習・復習)等】												
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA01 51252 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
【到達目標】											
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71253 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71254 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時間	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51309 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア史論 History of Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア史のヒストリオグラフィーをめぐる諸問題を考察する。歴史叙述の下敷きとなるメタナラティブを自覚的に問題化する諸論考を検討しながら、新しい歴史像の模索を試みる。											
【到達目標】											
東南アジア研究の成り立ちを理解し、自らの研究も含めて歴史の文脈に位置づけて分析する視角と手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>近年、東南アジア史研究において、これまでの歴史叙述の正当性に対する疑問が提起されている。歴史叙述を検討するにあたり提起されてきた方法論をめぐる理論的議論をたどりつつ、今日東南アジア史研究において古典と目される作品をとりあげて、研究史上の位置づけ・時代的文脈を検討する。受講者は、東南アジア史一般のみならず、個々の研究テーマに応じて、それぞれ研究史上において重要とみなされている作品を、研究が生み出された時代的文脈に位置づけて歴史叙述の観点から分析・紹介し、自らの研究を位置づける作業を行なう。</p> <p>(1) イントロダクション 授業の目的と内容の概括・ガイダンス 以下(2)～(7)について受講者の関心を配慮しつつ各1～3週を充てる。また受講者の関心に応じて適宜テーマを調整する。</p> <p>(2) 「東南アジア」の歴史的成り立ち (3) 「地域研究」と冷戦 (4) 東南アジア研究と華僑華人研究 (5) 植民地主義と自律史 (6) 前近代と近代 (7) 社会科学的手法 (8) まとめ 全体を振り返り歴史的視角と手法について議論する。</p>											
【履修要件】											
歴史研究の方法論、ヒストリオグラフィー、研究史をめぐる諸問題に強い関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
出席とレポート											
----- 東南アジア史論(2)へ続く -----											

東南アジア史論(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回事前に配布する文献に目を通してのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

主体的な授業参加を希望します。
オフィス・アワーは特に定めません。随時メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51314 LJ31									
授業科目名 <英訳>		水循環・風土論 Hydrology and Climatology				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
水文学は地球上の水の動態や分布，水質などを対象とした学問であり，水循環や水資源，気候および水災害，環境の持続性なども取り扱う．本授業では，アジアモンスーン地域を中心に，水循環過程や人間活動と水循環の相互作用に関する講義を行う．											
【到達目標】											
水循環や風土に関する重要な研究課題について，自主的に対応できる能力を養う．											
【授業計画と内容】											
第一週 オリエンテーション 第二週から十四週 講義 第十五週 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートの内容と、毎回の授業への出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/movie_kozan.html (研究紹介として「インドネシアの大規模火災、その問題解決に挑む」という動画を公開しています．) https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/3004639/ (研究紹介として「Part 2 MEGAFIRES: Engulfing Forests and Cities」という動画を公開しています．)											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業前に予習すべきこととしては，受講生が興味を持つ地域における水問題や気象条件を調べておくこと．											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51317 LJ31									
授業科目名 <英訳>		比較農村社会論 Comparative Studies of Rural Societies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ローカルな地域の特徴（自然環境、歴史、文化、社会構造）とグローバルな諸力（国家、植民地支配、グローバル化など）の相互作用でつくられてきた伝統的な人間生活の様式（特に生業と宗教）を、特定の地域に個別の特徴・問題として、また通地域的な共通の特徴・問題として理解した上で、その現代的な変化（開発、人口減少、高齢化など）の諸相を考えてゆくための基礎的な方法論について論じます。取り上げる事例は、日本と東南アジアの大陸部を中心とします。											
【到達目標】											
世界の諸地域に暮らす人々の生活を、人間生活の多様な形とその変化・将来像に関する枠組みに位置づけて考察できる。将来独自のフィールドワークにもとづいて農村に関する諸課題を考えてゆくための基礎的な能力をやしなう。											
【授業計画と内容】											
第1～2週にかけては、日本と東南アジア大陸部の農村社会の伝統的な特徴に関する講義をおこないます。第3～4週は、農村という空間とそこでの人々の生活の現代的な変容について講義をおこないます。第5～13週は、事前に配布する東南アジア大陸部や世界の諸地域の農村社会に関する論文や民族誌を読んだ上で、その内容について議論をおこないます。受講生には、発表の準備を求めます。第14～15週は、フィールドワークの方法論について、特に現地の情報を収集する際の注意点や、それを民族誌的記述に練り上げるプロセスについて意見交換します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点と年度末のレポート。平常点は、授業への出席と発言、およびその都度提示する課題に関する発表への評価からなります。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
課題として授業中に指定する書籍と論文については、事前に読み、スライド数枚からなる発表の準備をして、授業に臨むようにしてください。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業外での面会については、事前にメール等で連絡をとるようにしてください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81318 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域研究プロジェクト・デザイン Area Studies Project Designing				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
受講生それぞれの研究プロジェクト設計を補助することを目的とする。具体的には、博士論文予備論のためのフィールドワークや文献調査を事前に自らデザインすることを目指す。											
【到達目標】											
フィールドワーク（文献調査を含む）で行うべきことを事前にイメージトレーニングする。自分の研究の目的を明確にし、先行研究のなかでの立ち位置を明確にする。											
【授業計画と内容】											
以下に記したようなトピックに関するホームワークの提出とその相互参照に基づく受講者参加型授業を進める。調査前のリサーチ・デザインならびに調査後データの可視化と論文構成のための力を養うことを主眼とし、博士予備論文執筆のための基礎的作業とする。奨学金情報の整理、設問分析、プロポーザル準備や文献探索方法など実効性のあるトレーニングも試みたい。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究タイムテーブルの作成 2 - 3 研究テーマの明確化と文章化 4 - 5 分析単位（空間的・歴史的枠組）の設定と文章化 6 調査デザイン/論文構成に関するコンセプト・マップの作成 7 方法論 8 調査方法 9 - 10 研究史レビュー 11 リーディング・リスト設計と読解（地域） 12 リーディング・リスト設計と読解（テーマ） 13 文献探索方法 14 奨学金申請のためのプロポーザル・ライティングなど 15 まとめ 											
【履修要件】											
地域、分野、トピックを問わない。											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一連のホームワークの提出と授業への積極的な参加 ・期末提出物としてのリーディング・リスト（地域とテーマ） 											
----- 地域研究プロジェクト・デザイン (2)へ続く -----											

地域研究プロジェクト・デザイン (2)

[教科書]

授業中に指示する
適宜指示する。

[参考書等]

(参考書)
適宜指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分のホームワークを受講生人数分コピーし配布する。

(その他(オフィスアワー等))

アポイントメントによるオフィスアワー

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 81319 LJ31									
授業科目名 <英訳>		紛争と平和 Conflict and Peace in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では軍隊と政治について考えます。軍隊は政治には関わらないというのが民主主義の原則となっています。それは理想ではあるものの、軍はしばしば政治に介入してきました。クーデターの数自体はいまや減少傾向にあります。そうしたあからさまな暴力を伴わない軍の政治的、経済的影響力の行使は、現代世界でもまだまだ観察できます。また、中国とロシアの台頭が世界の安全保障環境を大きく変えている現在、安全保障政策の立案や実施を担う軍の政治的役割は各地で重要となることも予想されます。政治における軍の役割、また、これからの世界の安全保障について考えるために、この講義では、The Oxford Encyclopedia of the Military in Politics (3巻本)を主な教材として受講生全員で議論します。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、英語で書かれた先行研究レビューを読み込んで議論することで、軍隊と政治との関係について理解するとともに、先行研究のレビューの書き方についても学びます。本テーマのなかのどのトピックをとりあげるかは受講生の問題関心に合わせて変更することもあるため、受講生の研究関心を深めることにも役立つ。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション											
第2回、第3回 先行研究レビューについて											
第4回、第5回 政治と軍隊に関する古典を読む											
第6回、第7回 東南アジア											
第8回、第9回 南アジア											
第10回、第11回 中東											
第12回、第13回 アフリカ											
第14回、第15回 受講者報告											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席点：10%											
授業での報告：30%											
授業での討論参加：30%											
----- 紛争と平和(2)へ続く -----											

紛争と平和(2)

最終レポート：30%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予備知識は必要ないが、事前に課題となる文献を報告者以外も読んでくる必要があるので、授業準備に一定の時間を割かなければならない。

(その他(オフィスアワー等))

教員との面接を希望するものはアポイントをとること。メールアドレスと研究室の内線番号は以下の通り。

nakayosi@cseas.kyoto-u.ac.jp

7837

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51321 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジアの農業・農村 Nature and Agriculture in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本講義では、東南アジアの農業・農村を理解するために、生態史の観点から考えます。東南アジアの自然のメカニズムとその変化（自然史）を理解するだけでなく、東南アジアの人たちの自然との関係の歴史を学びます。東南アジア生態史研究における基本的な考え方と関連した研究手法について学んだのち、受講生の実際の研究課題を題材にしながら、自然史と人の行為が織りなす歴史について学びます。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・生態史理解のための基礎的な考え方と研究手法を身につける ・人間社会と自然との関係を学ぶ ・分析と総合のための思考方法を学ぶ ・既存研究を活用するための多様な理解力を養う 											
【授業計画と内容】											
1. ガイダンス 2～4. 生態史研究の基本的な考え方 5～7. 生態史研究の手法 8～10. 文明における生態環境の役割 11～14. 東南アジアの生態史（受講生の課題に即しながら） 15. 総合討論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席、発表、議論への積極的参加等に基づき、総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
講義に関する質問は、メールや研究室で随時対応する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81322 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア経済論 I Economic Approach to Southeast Asia I				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
東アジア・東南アジア経済に関する研究を進めるにあたって、実証・理論の両面における経済学の方法論をどのように応用できるかを講義し、考える。そのための基本となる知識や方法論を紹介し、また分野の広がりを理解できるような研究展望を提供する。											
[到達目標]											
受講者が東・東南アジアに関するそれぞれのテーマの研究に取り組む際に、経済学的な観点と方法論を主体的に加味して考察が進められるような基本知識の習得を目的とする。計量経済学的な統計分析の基礎的ノウハウの習得も目的とする。											
[授業計画と内容]											
講義は以下の3つのモジュールからなる。 0．イントロダクション（1回） 1．アジアの経済成長とマクロ経済知識の基礎（講義2回、輪読1回） 成長理論とアジア経済の現実 2．アジア経済と企業・金融制度（講義3回、輪読3回） 金融・企業システム、所有、企業統治 3．経済制度論とアジア経済（講義1回、輪読4回） 経済発展と政治経済制度に関する比較研究分野の論文ないしテキストの輪読・討論 必要と時間的余裕に応じて、計量経済学的な実証分析の基礎講義と統計パッケージソフトの利用法の指南も行う。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
指定論文討議における貢献20%、3回程度のショートペーパー45%、タームペーパー35%の合計点で評価する。											
[教科書]											
全体としては特になし。Reading Assignmentをトピックごと課す。											
[参考書等]											
（参考書） 講義においてトピックごとに示す。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
指定された論文を事前に読み込んでくることが求められる。論文はトピックごとに適宜指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
講義内で適宜指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81323 LE31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア経済論 II Economic Approach to Southeast Asia II				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的]											
<p>This course studies quantitative analytical frameworks and use case studies to examine the role of geographic and institutional factors such as community development, skills, migration, agglomeration of economic activities, in understanding the performance of regions in emerging/developing vs developed economies. We will analyze regional differences through geography and institutions, answering questions such as: How does urbanization relate to economic development? How does institutional difference have persistent effects on economic development? How do skill transferability and migration affect economic development? How does intergroup contact foster nation building?</p>											
[到達目標]											
<p>Through active participation in discussions and presentations of assigned papers, students will absorb the research designs of the most up-to-date study results, and each student will be involved in their own research thesis. Students will learn methods for performing comprehensive, micro-level research on organizations, companies, industries, employment, foreign trade, production networks, and urbanization in developing economies or "newly emerging" economies. Students will study the basic mechanisms of industrial development and prior empirical research, acquiring the basic knowledge needed to independently understand the latest research results. The reference and lecture notes, and materials cover a broad range of research results regarding the economies of newly emerging nations, mainly in East and Southeast Asia, but are also spreading to incorporate the African continent and Latin America.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Readings marked by asterisks (*) are required. Others are recommended. Main textbook: Debraj Ray, Development Economics. Princeton University Press, 1998 (hereafter "Ray").</p> <p>Week 1 General introduction to this course, and to the study of Development Economics. We will also discuss facts to be explained. *Ray, Ch. 1. • Samphantharak, Krislert, 2021. Economic Development of Southeast Asia. Book Project.</p> <p>Week 2 Facts and measuring development, growth, and poverty *Ray, Ch. 2. • Abhijit Banerjee, Roland Benabou, Dilip Mookherjee, (ed). 2006. Understanding Poverty. Oxford University Press. • Timothy F. Bresnahan and Robert J. Gordon, ed, The Economics of New Goods, University of Chicago Press. • Henderson, Vernon, J., Adam Storeygard, David N. Weil. 2012. "Measuring Economic Growth from Outer Space." American Economic Review, 102(2): 994-1028. DOI: 10.1257/aer.102.2.994 • Donaldson, Dave, and Adam Storeygard. 2016. "The View from Above: Applications of Satellite Data in Economics." Journal of Economic Perspectives, 30 (4): 171-98. DOI: 10.1257/jep.30.4.171 • Piketty, Thomas. 2003. "Income inequality in France, 1901-1998." Journal of Political Economy, 111(5): 1004-1042.</p>											
----- 東南アジア経済論 II (2)へ続く -----											

東南アジア経済論 II (2)

Week 3 Economic growth theories

*Ray, Ch. 3-4.

- Abhijit Banerjee and Esther Duflo. 2019. Good Economics for Hard Times. Public Affairs.
- Abhijit Banerjee, Roland Benabou, Dilip Mookherjee, (ed). 2006. Understanding Poverty. Oxford University Press.
- Bates, Robert H., Avner Greif, Margaret Levi, Jean-Laurent Rosenthal, and Barry R. Weingast. Analytic Narratives, Princeton: Princeton University Press, 1998.

Week 4 History, expectations, and institutions

*Ray, Ch. 5.

- Akcigit, Ufuk and Tom Nicholas. 2019. "History, Microdata, and Endogenous Growth." Annual Review of Economics, 11: 615-633.
- Dell, Melissa. 2010. "The Persistent Effects of Peru's Mining Mita." Econometrica 78(6): 1863-1903.
- Dell, Melissa, Nathan Lane, and Pablo Querubin. 2018. "The Historical State, Local Collective Action, and Economic Development in Vietnam." Econometrica, 86(6): 2083-2121.

Week 5 Markets, institutions, and economic development

*John McMillan. 2002. Reinventing the Bazaar: The Natural History of Markets. W. W. Norton & Company.

- Avner Greif. 2006. Institutions and the Path to the Modern Economy: Lessons from Medieval Trade. Cambridge University Press.
- Dell, Melissa, and Benjamin Olken. 2020. "The Development Effects of the Extractive Colonial Economy: The Dutch Cultivation System in Java." Review of Economic Studies, 87(1): 164-203. MIT News- The complex effects of colonial rule in Indonesia.
- Dippel, Christian, Avner Greif, Dan Trefler, 2020. "Outside Options, Coercion, and Wages: Removing the Sugar Coating," The Economic Journal. 130, issue 630: 1678-1714.

Week 6 Measuring and explaining inequality: The role of political economy and institutions

*Ray, Ch. 6 and Ch. 8.

- Daron Acemoglu and James A. Robinson. 2012. Why Nations Fail: Origins of Power, Poverty and Prosperity. Currency.
- Daron Acemoglu and James A. Robinson. 2019. The Narrow Corridor: States, Societies, and the Fate of Liberty. Viking.
- Jean Dreze and Amartya Sen. 2013. An Uncertain Glory: India and Its Contradictions. Princeton University Press.
- Eric Chaney. 2013. Revolt on the Nile: Economic Shocks, Religion and Political Power. Econometrica. 81(5): 2033-2053.

Week 7 Rural-urban interconnections, urbanization, and infrastructure

*Ray, Ch. 9 and Ch. 10.

- Mukesh Eswaran and Ashok Kotwal. 1994. Why Poverty Persists in India: A Framework for Understanding the Indian Economy. Oxford University Press.
- Kaivan Munshi. 2020. "Social Networks and Migration" Annual Review of Economics.
- Bazzi, Samuel, Arya Gaduh, Alexander D. Rothenberg, Maisy Wong, 2016. "Skill Transferability, Migration, and Development: Evidence from Population Resettlement in Indonesia." American Economic Review, 106(9): 2658-2698.
- Bazzi, Samuel, Arya Gaduh, Alexander D. Rothenberg, Maisy Wong, 2019. "Unity in Diversity? How

東南アジア経済論 II (3)へ続く

東南アジア経済論 II (3)

Intergroup Contact Can Foster Nation Building," *American Economic Review*, 109(11): 3978-4025.

• Bryan, Gharad, Edward Glaeser, and Nick Tsivanidis. 2019. "Cities in the Developing World." NBER Working Paper No. 26390.

Henderson, Vernon and Matthew A. Turner. 2020. "Urbanization in the developing world: Too early or too slow?" *Journal of Economic Perspectives*.

• Marx, Benjamin, Thomas Stoker and Tavneet Sur. 2013. "The Economics of Slums in the Developing World." *Journal of Economic Perspectives* 27(4): 187-210.

• Akbar, Prottoy A., Victor Couture, Gilles Duranton, and Adam Storeygard. 2018. "Mobility and Congestion in Urban India."

• Hjort, Jonas and Jonas Poulsen. 2019. "The Arrival of Fast Internet and Employment in Africa." *American Economic Review*, 109(3): 1032-1079. DOI: 10.1257/aer.20161385

Week 8 Midterm presentations

Detailed instructions will be given later in the semester by Week 5.

Week 9 Markets and transactions in agriculture: Land and credit

*Ray, Ch. 11.

• Ray, Ch. 12 and Ch. 14.

• Rachel Kranton and Anand Swamy. "Contracts, Hold-Up and Exports: Textiles and Opium in Colonial India," *American Economic Review* 98 (3), June 2008, pp. 967-89.

• Raul Sanchez de la Sierra. "Whither Formal Contracts?" *Econometrica*. Forthcoming.

Week 10 Markets and transactions in agriculture: labor and insurance

*Ray, Ch. 13.

Ray, Ch. 15.

• Michihiro Kandori, Shinya Obayashi. Labor union members play an OLG repeated game. *Proceedings of the National Academy of Sciences* Jul 2014, 111 (Supplement 3) 10802-10809; DOI: 10.1073/pnas.1400827111

• Esteban Mendez-Chacon and Diana Van Patten. 2021. "Multinationals, Monopsony, and Local Development: Evidence from the United Fruit Company."

Week 11 International trade, development strategies, and institutions

*Ray, Ch. 16.

• Ray, Ch. 17 and Ch. 18.

• Diego Puga and Daniel Trefler. "International trade and institutional change: Medieval Venice's response to globalization," *Quarterly Journal of Economics* 129(2), May 2014: 753-821.

Week 12 Firms: microeconomics of industrial development

*Verhoogen. 2021. "Firm-Level Upgrading in Developing Countries."

• Jensen, Robert, and Nolan H. Miller. 2018. "Market Integration, Demand, and the Growth of Firms: Evidence from a Natural Experiment in India." *American Economic Review*, 108 (12): 3583-3625. DOI: 10.1257/aer.20161965

• Jensen, Robert. 2007. "The Digital Divide: Information (Technology), Market Performance, and Welfare in the South Indian Fisheries Sector." *The Quarterly Journal of Economics*, 122(3): 879-924. DOI: 10.1162/qjec.122.3.879

• Felkner, John S. and Robert M. Townsend. 2011. "The Geographic Concentration of Enterprise in Developing Countries." *The Quarterly Journal of Economics*, 126(4): 2005-2061. DOI: 10.1093/qje/qjr046

東南アジア経済論 II (4)へ続く

東南アジア経済論 II (4)

Week 13 Management: microeconomics of industrial development

*Bloom, Nicholas, Benn Eifert, Aprajit Mahajan, David McKenzie, and John Roberts. 2013. "Does Management Matter? Evidence from India." *The Quarterly Journal of Economics*, 128(1): 1-51. DOI: 10.1093/qje/qjs044 (VoXDev)

• Bloom, Nicholas, Aprajit Mahajan, David McKenzie and John Roberts. 2020. Do Management Interventions Last? Evidence from India. *AEJ: Applied Economics*, 12(2):198-219.

• Bloom, Nicholas, Aprajit Mahajan, David McKenzie, and John Roberts. 2010. "Why Do Firms in Developing Countries Have Low Productivity?" *American Economic Review*, 100 (2): 619-23. DOI: 10.1257/aer.100.2.619

• Giorcelli, Michela. 2019. "The Long-Term Effects of Management and Technology Transfers." *American Economic Review*, 109 (1): 121-52. DOI: 10.1257/aer.20170619

Week 14 Organizations and incentives: microeconomics of industrial development

*Atkin, David, Azam Chaudhry, Shamyala Chaudry, Amit K. Khandelwal, and Eric Verhoogen. 2017.

"Organizational Barriers to Technology Adoption: Evidence from Soccer-Ball Producers in Pakistan." *The Quarterly Journal of Economics*, 132(3): 1101-1164. DOI: 10.1093/qje/qjx010

• Karpoff, Jonathan. 2001. Public Versus Private Initiative in Arctic Exploration: The Effects of Incentives and Organizational Structure *Journal of Political Economy* 109(1): 38-78.

• Chan, David C. 2016. "Teamwork and Moral Hazard: Evidence from the Emergency Department." *Journal of Political Economy*, 124(3): 734-770. DOI: 10.1086/685910.

• Chan, David C. 2019. "The Efficiency of Slacking Off: Evidence from the Emergency Department." *Econometrica*, 86(3): 997-1030. DOI: 10.3982/ECTA13565

Week 15 Final presentation

The detailed instruction will be given later in the semester by Week 10.

【履修要件】

Each class meeting will open with a presentation by the instructor, followed by discussion of the assigned textbook. Active class participation will, thus, form a major component of one's overall grade for the course. Without imposing a strict requirement, I assume familiarity with the concepts taught in basic undergraduate-level Statistics. This is an economics class that employs quantitative reasoning.

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (40%), two in-class presentations of midterm and final projects (15% each), and final report (30%). Active and constructive participation during the class discussions will influence your grade as well. The midterm take-home exam will consist of both analytical and empirical questions. Detailed instructions will be given later in the semester by Week 5. Regarding the final project, students must submit the final report.

【教科書】

授業中に指示する

Instructions will be provided during class.

----- 東南アジア経済論 II (5)へ続く -----

東南アジア経済論 II (5)

[参考書等]

(参考書)

Others, all of the required readings are available on electronic reserve via Panda.

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Students should read the papers that are assigned for each upcoming class and participate in class discussions. Supplementary to course content, students are also encouraged to pursue self-study on statistical methods, qualitative research methods, and microeconomics in order to better understand related academic papers. Please check the following textbooks: (1) Varian's Microeconomic Analysis; (2) Gibbons' Game Theory for Applied Economists; (3) Cunningham's Causal Inference: The Mixtape; (4) Hernan and Robins' Causal Inference: What If; (5) Angrist and Pischke's Mostly Harmless Econometrics.

(その他 (オフィスアワー等))

Tuesdays 2:00-4:00, by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 81325 LE31									
授業科目名 <英訳>		東南アジアにおけるイスラームの歴史 History of Islam in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的]											
This course explores historical dynamics of Islamization and vernacularization in Southeast Asia. Major topics to be covered include the rise of regional sultanates, the conversion of local populations, the development of vernacular Muslim cultural expressions, and the impact of European colonialism on Muslim communities in the region.											
[到達目標]											
Through this course of directed readings and active class discussion, students will familiarize themselves with the historical formation and development of Muslim societies of Southeast Asia. This can provide an important foundation for the further study and understanding of modern / contemporary developments in the region, as well as perspective on the way in which distinctive local cultures formed across the archipelago in dynamic interaction with other traditions originating in East Asia, South Asia, the Middle East, and Europe.											
[授業計画と内容]											
Week 1 General Introduction to this course, and to the study of Muslim history Requirements and expectations: What will be required of you?											
Week 2 Islamization Marshall Hodgson (1974), <i>The Venture of Islam: Conscience and History in a World Civilization</i> . University of Chicago Press, II: 532-551. Nehemia Levtzion (1979). "Toward a Comparative Study of Islamization," in: <i>Conversion to Islam</i> . New York: Holmes & Meier Publishers, 1-23. Torsten Tschacher, "Circulating Islam: Understanding Convergence and Divergence in the Islamic Traditions of Ma'bar and Nusantara," in: R. Michael Feener & Terenjit Sevea, Eds. <i>Islamic Connections: Muslim Societies in South and Southeast Asia</i> (Singapore: ISEAS Press, 2009), 48-67. Richard Eaton (2003). <i>The Rise of Islam on the Bengal Frontier</i> . Berkeley: University of California Press, 268-303. Devin DeWeese (1994), <i>Islamization and Native Religion in the Golden Horde</i> . University Park, PA: Penn State Press, 17-66.											
Week 3 Vernacularization Finbarr Flood (2009). <i>Objects of Translation: Material Culture and Medieval 'Hindu-Muslim' Encounter</i> . Princeton University Press, 1-14. Johan Elverskog (2013). <i>Buddhism and Islam on the Silk Road</i> . Singapore: ISEAS Press, 57-116. Amitav Acharya (2013). "Indianization, Localization, or Convergence," in: <i>Civilizations in Embrace: The Spread of Ideas and the Transformation of Power #8211 India and Southeast Asia in the Classical Age</i> . Singapore: ISEAS Press. 19-42. Zvi Ben-Dor Benite (2005). "The Han Kitab Authors and the Chinese Islamic School," <i>The Dao of Muhammad: A Cultural History of Muslims in Late Imperial China</i> . Harvard University Press, 115-162. Ronit Ricci (2011). <i>Islam Translated: Literature, Conversion, and the Arabic Cosmopolis of South and Southeast Asia</i> . University of Chicago Press, 1-23.											
----- 東南アジアにおけるイスラームの歴史(2)へ続く -----											

東南アジアにおけるイスラームの歴史(2)

Week 4 Early Muslim Maritime Networks

G.R. Tibbetts (1957), " Early Muslim Traders in Southeast Asia, " *Journal of the Malayan Branch of the Royal Asiatic Society* XXX.i: 1-45.

Hermann Kulke (2009). " The Naval Expeditions of the Cholas in the Context of Asian History, " in: Hermann Kulke, K. Kesavapany & Vijay Sakhuja, Eds. *Nagapattinam to Suvarnadwipa: Reflections on the Chola Naval Expeditions to Southeast Asia*. Singapore: ISEAS Press, pp. 1-19.

Angela Schottenhammer (2019), " China ' s Increasing Integration into the Indian Ocean World until Song Times: Sea Routes, Connections, Trades, " in: *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, Volume I* #8211 Commercial Structures and Exchanges PalgraveMacMillan, pp. 21-52.

Eivind Heldaas Seland (2019): in: *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, Volume I* #8211 Commercial Structures and Exchanges. PalgraveMacMillan, pp. 69-84.

Roderich Ptak, (1992). " The Northern Trade Route to the Spice Islands: South China Sea #8211 Sulu Zone #8211 North Moluccas, 14th to early 16th century), " *Archipel* 43: 27-56 https://www.persee.fr/doc/arch_0044-8613_1992_num_43_1_2804

Week 5 First Formations of Local Muslim Cultures

Geoff Wade (2010). " Early Muslim Expansion in Southeast Asia, eighth to fifteenth centuries, " *New Cambridge History of Islam*, volume 3, 366-408.

Anthony Reid (1993). " A Religious Revolution, " *Southeast Asia in the Age of Commerce, 1450-1680* #8211 Volume Two: Expansion and Crisis. Yale University Press. 132-201.

Elizabeth Lambourn (2008). " Tombstones, texts and typologies - seeing sources for the early history of Islam in Southeast Asia, " *Journal of the Economic and Social History of the Orient*, 51.2: 252-286.

R. Michael Feener, et al. (2021). " Islamization and the Formation of Vernacular Tradition in 15th-Century Northern Sumatra, " P. Daly, E.E. McKinnon, L. Lum, Ardiansyah, Nizamuddin, N. Ismail, Y.S. Tai, J. Rahardjo, & K. Sieh *Indonesia and the Malay World*: <https://doi.org/10.1080/13639811.2021.1873564>

Majid Daneshgar (2020). " An Old Persian Anthology of Poems from Aceh, " *Dabir* 7: 61-90.

Week 6 Accounts of Islamization

G.W.J. Drewes (1968). " New Light on the Coming of Islam to Indonesia, " *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 124.4: 433-459 https://brill.com/view/journals/bki/124/4/article-p433_1.xml?language=en

Denys Lombard & Claudine Salmon (1994). " Islam and Chineseness, " *Indonesia* 57: 115-132. <https://ecommons.cornell.edu/handle/1813/54025>

Pierre-Yves Manguin (1985), " The Introduction of Islam to Champa, " *Journal of the Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society* LVIII.i, pp. 1-28.

J. Noorduyn (1987). " Makassar and the Islamization of Bima, " , " *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 143.3: 312-342 https://brill.com/view/journals/bki/143/2-3/article-p312_6.xml?rskey=FGvblb&result=1

Tom Harrison (1972). " The Advent of Islam to West and North Borneo, " *Journal of the Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society* XLV.i: 10-20.

Holger Warnk, " The Coming of Islam and Moluccan-Malay Culture to New Guinea. C. 1500-1920, " *Indonesia and the Malay World* 30.110: <https://www.tandfonline.com/doi/pdf/10.1080/13639811003665454?needAccess=true>

東南アジアにおけるイスラームの歴史(3)

Week 7 Trade, sufism and military expansion

A.H. Johns (1993). "Islamization in Southeast Asia: Reflections and Reconsiderations with Special Reference to the Role of Sufism." *Southeast Asian Studies* (Kyoto) 31(1): 43-61.

M.C. Ricklefs (2007). "The Javanese Islamic Legacy to c. 1830: The Mystic Synthesis," *Polarising Javanese Society: Islamic and other visions (c. 1830-1930)*. Singapore: NUS Press. 1-11.

Thomas Gibson (2007). *Islamic Narrative and Authority in Southeast Asia from the 16th to the 21st Century*. New York: Palgrave MacMillan, 27-54.

Michael Hitchcock (1996). *Islam and Identity in Eastern Indonesia*. University of Hull Press, 57-72.

Michael Laffan (2011). *The Makings of Indonesian Islam: Orientalism and the Narration of a Sufi Past*. Princeton University Press. 3-39.

Week 8 Islamic institutional formations

Marie-Sybille de Vienne (2015). *Brunei: From the Age of Commerce to the 21st Century*. Singapore: NUS Press, 29-49.

Simon C. Kemper (2018). "The White Heron Called by the Muezzin: Shrines, Sufis and Warlords in Early Modern Java," in: Joshua Gedacht & R. Michael Feener, Eds. *Challenging Cosmopolitanism: Coercion, Mobility, and Displacement in Islamic Asia*. Edinburgh University Press, pp. 81-120.

Ismail Fajrie Alatas (2019), *Buddhist and Islamic Networks in Southern Asia: Comparative Perspectives*, in: R. Michael Feener & Anne M. Blackburn, Eds. *Honolulu: University of Hawaii Press*, pp. 20-48:https://www.academia.edu/38538511/Buddhist_and_Islamic_Orders_in_Southern_Asia_Comparative_Perspectives

Philip Bruckmayr (2019). *Cambodia's Muslims and the Malay World: Malay Language, Jawi Script, and Islamic Factionalism from the 19th-century to the Present*. Leiden: Brill. pp. 25-55.

Week 9 Courts and cultures of Southeast Asian sultanates

Anthony Reid (1997). "Islam and the State in Seventeenth-century Southeast Asia." *Proceedings of the International Seminar on Islamic Civilization in the Malay World*. T. Abdullah. Istanbul: IRCICA. 67-84.

Martin van Bruinessen, (1995). "Shari'a Court, Tarekat and Pesantren: Religious Institutions in the Banten Sultanate." *Archipel*. 50: 165-200.

Takeshi Ito (1984). *The World of the Adat Aceh: A Historical Study of the Sultanate of Aceh*. Australian National University dissertation, pp. 206-272 <http://acehbooks.org/search/detail/4953?language=en>

Ann Kumar (1980). "Javanese Court Society and Politics in the Late Eighteenth Century: The Record of a Lady Soldier, Part I: The Religious, Social, and Economic Life of the Court," *Indonesia* 29: 1-46. <http://cip.cornell.edu/DPubS?service=UI&version=1.0&verb=Display&page=record&handle=seap.indo/1107122573>

Week 10 Muslim material cultures

John Kieschnick (2003). *The Impact of Buddhism on Chinese Material Culture*. Princeton University Press. 1-23.

Elizabeth Lambourn (2004). "The formation of the Batu Aceh Tradition in Fifteenth Century Samudera-Pasai," *Indonesia and the Malay World* 32(93): 211-248.

John Miksic (2005). "The Art of Cirebon and the Image of the Ascetic in Early Javanese Islam," in: *Crescent Moon: Islamic Art and Civilisation in Southeast Asia* (Ed. James Stevenson Bennet). Adelaide: Art Gallery of South Australia, 121-138.

Mehrdad Shokoohy (2011). "Muslim Malabar: A Crossroads with South-East Asia and Beyond," *Muslim Architecture of South India*. London: RoutledgeCurzon. 247-266.

Nancy Florida (1995). *Writing the Past, Inscribing the Future: History as Prophecy in Colonial Java*. Durham,

東南アジアにおけるイスラームの歴史(4)

NC: Duke University Press, 352-390.

C. van Dijk (2007). #8232 " The Changing Contour of Mosques. In: Nas, P.J.M. (Ed.), The Past in the Present. Architecture in Indonesia, " Rotterdam & Leiden: NAI Publishers and KITLV Press. 45-66.

Week 11 Literary Traditions

Aditya Behl (2012). Love ' s Subtle Magic: An Indian Islamic Literary Tradition, 1379-1545. Oxford University Press, 1-29.

Annabel Teh Gallop (2007). " The Art of the Qur ' an in Southeast Asia, " in: Word of God, Art of Man: The Qur ' an and Creative Expression (Fahmida Suleman, Ed.). Oxford University Press, 191-204.

A.H. Johns (1996). " In the Language of the Divine: The Contribution of Arabic, " in: Illuminations: The Writing Traditions of Indonesia: Featuring Manuscripts from the National Library of Indonesia (Ed. Ann Kumar). Jakarta: Perpustakaan Nasional, 33-48.

Ricklefs, M. C. (1997). " Islam and the Reign of Pakubuwana II, 1726-49. " In: Islam- Essays in Scripture, Thought and Society: A Festschrift in Honour of Anthony H. Johns (P. Riddell & T. Street, Eds.). Leiden: E.J. Brill. 237-252.

Cummings, W. (2001). "Scripting Islamization: Arabic Texts in Early Modern Makassar." Ethnohistory 48.4: 559-86.

Week 12 Ritual and Pilgrimage

Eric Tagliacozzo, The Longest Journey: Southeast Asians and the Pilgrimage to Mecca (Oxford University Press, 2013), 83-106.

Claude Guillot (2002). " The Tembayat Hill: Clergy and Royal Power in Central Java from the 15th to the 17th Century, " in: The Potent Dead: Ancestors, Saints, and Heroes in Contemporary Indonesia (Henri Chambert-Loir & Anthony Reid, Eds.). Crows Nest, NSW: Allen & Unwin, 141-159.

Peter Carey (2008). The Power of Prophecy: Prince Dipanagara and the end of the old order in Java, 1785-1855. KITLV Press. 127-156. FULL TEXT AVAILABLE FREE ONLINE AT: <http://www.kitlv.nl/book/show/1204>

Julian Millie (2009), Splashed by the Saint: Ritual Reading and Islamic Sanctity in West Java. Leiden: KITLV, 21-48.

Laurie Sears (1996) Shadows of Empire: Colonial Discourses and Javanese Tales. Durham, NC: Duke University Press, 34-74.

George Quinn (2012), " The Veneration of Female Saints in Indonesia, " Encyclopedia of Women and Islamic Cultures (Suad Joseph et. al. , Eds.). Leiden: Brill, 2012. FULL TEXT AVAILABLE FREE http://www.academia.edu/2567548/The_veneration_of_female_saints_in_Indonesia

Week 13 Itineraries and institutions of the ulama

Azyumardi Azra (2004). The Origins of Islamic Reformism in Southeast Asia. Allen & Unwin. 70-86.

Martin van Bruinessen (1994). " Pesantren and kitab kuning: continuity and change in a tradition of religious learning " , in: Wolfgang Marschall (ed.), Texts from the islands. Oral and written traditions of Indonesia and the Malay world [Ethnologica Bernica, 4]. Berne: University of Berne, 121-145. http://www.hum.uu.nl/medewerkers/m.vanbruinessen/publications/Bruinessen_Pesantren_and_kitab_kuning.pdf

Peter Riddell (1997). " Religious links between Hadhramaut and the Malay-Indonesian world, c. 1850 to c. 1950, " in Ulrike Freitag and William Clarence-Smith (eds.), Hadhrami traders, scholars, and statesmen in the Indian Ocean, 1750s-1960s. Leiden: E.J. Brill. 217-30.

Francis Bradley (2010). The Social Dynamics of Islamic Revivalism in the Rise of the Patani School, 1785-1909. University of Wisconsin dissertation, 272-342. FULL TEXT AVAILABLE FREE <http://academics.hamilton.edu/history/fbradley/Bradley%20Dissertation.pdf>

東南アジアにおけるイスラームの歴史(5)

Week 14 Rebellion, religious reform, and collaboration

Peter Carey (2008). *The Power of Prophecy: Prince Dipanagara and the end of the old order in Java, 1785-1855*. KITLV Press. 605-656. FULL TEXT AVAILABLE FREE ONLINE AT: <http://www.kitlv.nl/book/show/1204>

Christine Dobbin (1974). "Islamic Revivalism in Minangkabau at the Turn of the Nineteenth Century." *Modern Asian Studies* 8(3): 319-345.

Sartono Kartodirdjo (1966). *The Peasant 's Revolt of Banten in 1888*. The Hague: Martinus Nijhoff, 140-175.

Joshua Gedacht (2013), *Islamic-Imperial Encounters: Colonial Warfare, Coercive Cosmopolitanism, and Religious Reform in Southeast Asia#82121801-1941*. University of Wisconsin dissertation, 36-115.

Nico Kaptein (2009). " Arabophobia and Tarekat: How Sayyid Uthman became Advisor to the Netherlands Colonial Administration, " in: *The Hadhrami Diaspora in Southeast Asia* (Ahmad Ibrahim Abushouk & Hassan Ahmad Ibrahim, Eds.). Leiden: Brill, 33-44.

Week 15 Modernizing reconfigurations

Michael Feener (2010). " New Networks and New Knowledge: Migrations, Communications and the Refiguration of the Muslim Community in the Nineteenth and Early Twentieth Centuries, " in: *The New Cambridge History of Islam*, volume 6 (Robert Hefner, Ed.). Cambridge University Press, 39-68.

William Roff, (1964). "The Malayo Muslim World of Singapore at the Close of the Nineteenth Century." *Journal of Asian Studies* 24(1): 75-90.

Nile Green (2011). *Bombay Islam: The Religious Economy of the West Indian Ocean, 1840-1915*. Cambridge University Press, 90-117.

Michael Laffan (2002) *Islam and Nationhood: The Umma Below the Winds*. London: Routledge, 103-113.

Jeffrey Hadler (2009). *Muslims and Matriarchs: Cultural Resilience in Minangkabau through Jihad and Colonialism*. Singapore: NUS Press, 138-155.

M.C. Ricklefs, (2006). " The Birth of the Abangan, " *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 162.1: 35-55.

【履修要件】

This class will be conducted as a seminar. Each class meeting will open with a presentation by the instructor, followed by discussion of the assigned texts. At regular points in the course, individual students will be required to make short presentations on particular readings to open up the conversation. Individual copies of all materials assigned for a particular day must be brought to class with you to facilitate direct reference to particular passages for discussion. Active class participation will thus form a major component of one 's overall grade for the course.

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (50%), two in-class presentation of assigned readings (25% each).

【教科書】

All of the required readings are available on Panda.

東南アジアにおけるイスラームの歴史(6)

The CSEAS Library has a wealth of references materials on the region, including atlases, dictionaries, grammars, and encyclopedias.

[参考書等]

(参考書)

In addition to print resources, you can find a wealth of primary source material online including digitized manuscripts from:

#8226 The Endangered Archives Programme: <https://eap.bl.uk/search?query=indonesia>

#8226 The British Library: <http://www.bl.uk/manuscripts/BriefDisplay.aspx?size=50>

o Please also check out their very informative 'Asian and African Studies Blog': <https://blogs.bl.uk/services/blog/6a00d8341c464853ef017ee63efb3d970d/search?filter.q=southeast+asia&search.x=0&search.y=0&search=Search>

#8226 DREAMSEA Project Archive at the Hill Monastic Manuscript Library: <https://hmml.org/research/dreamsea/>

#8226 The Malay Concordance Project searchable database of classical texts: <https://mcp.anu.edu.au>

#8226 Handlist of Jawi Authors and their Works: <http://faculty.washington.edu/heer/handlist23.pdf>

#8226 The Maritime Asia Heritage Society online archive: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp> also contains a number of digitized manuscripts: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/manuscript-viewer/>

o Other useful references are available there as well including an interactive timeline: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/resources/#timeline>

o An online publication series: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/blog/>

o Interactive 3D models of historical sites, buildings and objects in Aceh: <https://sketchfab.com/MaritimeAsiaHeritageSurvey/collections/heritage-of-aceh-indonesia>

[授業外学修(予習・復習)等]

Class discussions will require all students to have done the assigned readings carefully enough beforehand to have active and informed discussions of them in class.

(その他(オフィスアワー等))

Tuesdays 4:00-6:00, and appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51351 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture I					担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	石川 登		
							東南アジア地域研究研究所	教授	三重野 文晴		
					東南アジア地域研究研究所	教授	小林 知				
					東南アジア地域研究研究所	教授	FEENER, Michael				
					東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山 治				
					東南アジア地域研究研究所	准教授	中西 嘉宏				
					東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤 雅之				
					東南アジア地域研究研究所	准教授	町北 朋洋				
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理などを研究する上での、基礎的な問題設定とアプローチの方法に関する演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む基礎的な研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめの総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない ゼミの出席者は、積極的に質疑応答に参加するようにしてください。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたレジュメや資料、各自のノートをもとに内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにするよう心がけてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員の個別のオフィスアワーを参考にしてください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51352 SB31									
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture II				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関わる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたノートやレジュメ・資料などをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員ごとのオフィスアワーを参照してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71353 SB31									
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture III				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、総合的な視点からの問題把握と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文の作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない 授業中に適宜指導します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたやレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員のオフィスアワーを参照してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71354 SB31									
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture IV				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、それを先端的な学術研究の動向に結びつけて発展させるための演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。</p>											
【到達目標】											
<p>東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論</p>											
【履修要件】											
<p>博士予備論文の審査に合格した者。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>授業後は、配布されたレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>各教員のオフィスアワーを参考にしてください。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA01 61801 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71802 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71803 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[到達目標]											
地域の固有性の理解を深め、研究課題を発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 61805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
[到達目標]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、研究発表や討論、および研究課題に即した実践活動を行う能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81808 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア地域関連論特殊講義 Special Lecture on State and Society I				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>近年、SDGsなど、持続可能な開発の重要性が説かれるようになり、経済至上主義からの脱却が重要視されている。いち早く、持続可能な開発を国是とした国が存在する。それはブータン王国である。同王国は1970年代に、ジクミ・シンゲ・ワンチュク第4代国王が「国民総幸福」(GNH: Gross National Happiness)を提唱し、以後、幸福政策を推進してきた。わが国にも、東京都荒川区が同政策に注目、荒川区民総幸福度(GAH)を提唱、その動きは全国自治体に広まっている。</p> <p>幸福政策で有名なブータンであるが、その幸福哲学の根底には、仏教思想が存在する。ブータンは17世紀にシャブドゥン・ガワン・ナムゲル(1594-1651)が創立された。シャブドゥンがチベット仏教のドゥク派の座主であったことから、以後、ブータンの国教はドゥク派仏教となり、仏教は同国の精神的、文化的基盤となった。ブータン地域には、7～8世紀にチベットより仏教が伝わったとされている。シャブドゥンによるブータン建国以前より、ブータンにはチベット仏教の各宗派が布教をし、拠点を形成し、ブータン文化を構築してきた。すなわち、ブータンを理解するためにはチベットおよびチベット仏教の理解が不可欠である。</p> <p>本授業では、チベットおよびブータンの歴史、社会、文化、宗教について概観し、ブータンを含むチベット文化圏について多角的に理解することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
本授業では、チベットおよびブータンの歴史、社会、文化、宗教について概観し、ブータンを含むチベット文化圏について多角的に理解することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション チベットおよびブータンの概要</p> <p>第2回～第14回 チベット・ブータンの概論および研究法 チベット文化圏やブータンの歴史、文化、政治、社会などについての概論を行う。 文献調査やヒアリング調査を行えるよう、初歩的な古典チベット語、現代チベット語会話、ゾンカ語会話の習得を行う。 歴史書や宗教儀礼の文献など、文献の読解を行う。</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
----- アジア地域関連論特殊講義 (2)へ続く -----											

アジア地域相関論特殊講義 (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照していただくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。